

大会実施ガイドライン

【はじめに】

バスケットボール競技は室内競技であるため、新型コロナウイルス感染のリスクがあるスポーツです。大会会場における局所的に人が集まる場面と、大会会場までの移動場面は感染のリスクが高くなります。このウイルスの感染経路は飛沫感染と接触感染の2つですが、感染していても無症状の期間があり、自覚無く他人に感染させてしまうことと、人の身体を離れても条件によって数日は感染性を有していることがあり、誰もが知らない間にウイルスを運んでしまう危険性があります。誰かがウイルスを大会会場に持ち込み、大会がクラスターになることは絶対に避けなければなりません。

感染拡大を防ぎつつ大会を開催するためには、ウイルスの感染経路を理解した上で、大会に集う全ての人に協力を求めることと、丁寧に各局面の準備を行うことが大切です。安心して大会を行うことができるよう、下記対策について、各チームのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

1. 大会開催に関する基本方針

本大会の開催に関しては、JBA 事業・活動実施ガイドライン第5版（2022年5月12日発表）及び沖縄県対処方針（令和4年9月29日決定、随時更新あり）に基づき、以下の4つの項目を重視し、万全の感染症対策を講じた上で実施するものとする。尚、下記の事項について、全ての関係者（役員・審判・選手・スタッフ・保護者等）に周知し理解を求め、運営していく。

- (1) 各チームにおける感染症防止対策の徹底
- (2) 大会実施日（期間）の感染症防止対策（検温の実施、健康チェックシートの活用等）
- (3) 大会会場での3密（密集、密閉、密接）を避けるための対策
- (4) 大会前、大会期間中、大会終了後の感染症防止対策（健康観察等による感染防止対策）

2. 大会会場について

- (1) 可能な限り会場を増やし、密集状態の時間短縮を図る。
- (2) 可能な限り民間の公共施設を利用し、密集を防ぐ。
- (3) 会場の換気を徹底する。
- (4) チームの控え場所は、密集・密接を避けて大会会場の屋外に割り当てる。
- (5) 会場出入口、トイレ等に消毒液を設置する。

3. 大会運営について

- (1) 大会関係者（役員・審判・選手・スタッフ）は、大会2週間前から体温を計測し、健康チェックシートに記録しておくこと。各チーム責任者で保管してください。
- (2) チーム関係者（スタッフや選手等）に新型コロナウイルス感染症疑いの有症状がある者が出た場合、チームの大会参加に関して、チーム責任者と大会実行委員会で協議するものとする。
また、濃厚接触者が出た場合は、保健所の指示を仰ぎ、大会実行委員会において対応を検討し、適切な措置を取る。発覚した際は、いずれの場合においても、チーム責任者は大会実行委員長（沖縄県バスケットボール協会U15部会長）へ速やかに報告すること。
- (3) 大会関係者（チームスタッフ・役員・選手・保護者）は、大会当日の体温が37.5℃以上ある場合、または、強いだるさ等の風邪症状のある体調不良者は一切参加を認めない。また、途中で体調が悪くなった場合も速やかに帰宅する。
- (4) 審判・役員は各自で弁当・飲み物を用意する。審判・役員・チーム・選手も含めて会場にゴミを出さない。

- (5) 役員（大人・生徒）は必要最小人数で割り当てる。次試合のTOは、勝利チームのメンバーで行うものとする。
- (6) ハーフタイムで、次に試合を行うチームによるコート内での練習を認めない。
- (7) 大会に参加する部員（役員も含む）・チーム関係者（係4名含む15名以内）・コーチ・アシスタントコーチ・競技役員は、大会本部から配布されたIDカードを、自チームで準備したストラップに入れ首から掲げること。
- (8) 各会場への入場の際は、IDを提示し入場する。
- (9) ベンチ登録メンバー以外で入場を許可するのは、チーム関係者15名以内とし、その15名の中から、各係に割り当てるチーム関係者（ビデオカメラ係1名、熱中症対策係1名、救護対応係1名、荷物管理係1名）計4名を割り当てることとする。（全員IDを着用すること）
※大会3日目、及び最終日の入場制限について下記の通り、対応を行う。
大会3日目及び最終日に関して、入場を許可するのは、チーム関係者を30名以内とする。増員する際のIDに関しては、県協会HPよりダウンロードして、各チームで準備を行うこととする。
- (10) 試合後、各ベンチは、使用したチームのコーチ又はアシスタントコーチが、自チームで予め準備したアルコール消毒液で消毒を行う。また、TO機材に関しても、TOを担当したチームのコーチ又はアシスタントコーチが、アルコール消毒を行う。
- (11) 選手は参加同意書をチーム責任者へ提出する。各チーム責任者は参加同意書を申込書と一緒に提出すること。また、健康チェックシートを大会2週間前から実施し、大会後2週間保管すること。更に、大会3日目、最終日に試合があるチームは、健康チェックを継続し、新たなシートに記録すること。提出を求められた際は、速やかに提出できるようにすること。
- (12) ゲーム中・ウォーミングアップ中以外はマスクを着用する。なお、熱中症対策を万全に講じながら、その場の状況（気温・湿度・喚起状況等）や選手の体調等を考慮し各チーム責任者の監督の下、臨機応変に対応を行ってください。ただし、控え場所等で、やむを得ず飲食する際は、できるだけ会話を減らし、マスクの着用をお願いします。各チーム責任者は選手管理の徹底に努め、選手が体調不良（息苦しさや違和感等）を訴える際は、マスクを着用しなくてもよいこととする。また、各チームで消毒液を準備し、随時（ハーフタイムやメンバーチェンジ、タイムアウト、待機中等の際）消毒を行う。
- (13) 各チームで練習前にボール等の消毒と手洗いを十分行う。
- (14) 各選手は、マイボトル（水筒）かペットボトルを準備すること。チームで共有するようなスクイズボトルは使用しない。
- (15) コーチや審判、相手選手との握手はしない。また、試合後の相手チームやコーチへの挨拶・握手をしない。
- (16) 試合を行うチームは、前試合のチームが体育館外に出てから入館する。館内に次試合のチームが待機できるスペースが十分に確保できる場合は、館内での待機も認める。会場責任者の指示に従うこと。
- (17) 会場敷地内の入場者を制限する。入場する際は、IDを首から下げて提示する。また、駐車場が狭小な為、各チームのチーム関係者は公共交通機関をご利用ください。選手の輸送用の車両の駐車は5台以内とする。
- (18) ベンチ登録メンバー及びチーム関係者30名以内以外の入場を一切認めない。入場を許可されたチーム関係者の待機場所は、基本的にギャラリーとする。会場責任者の支持に従うこと。
- (19) 入場する際は、マスクを着用し、ソーシャルディスタンスをとる。また、大声を出しての応援は禁止とする。
- (20) 関係者は、自チームの試合が終わったら速やかに退館する。大会役員を担っているスタッフ等はその限りでない。

以上